

1年目→ 若手      5年目→ 中堅      10年目→ 中間管理職      20年目→ 館長クラス      30年目

新設

## 「文化をつなぐミュージアム」研修

- ・定員：300人／2日間
- ・開催：12月1日（木）～2日（金）
- ・対象：設置者・行政職員等、ミュージアムの地域課題解決や中長期的な将来構想に関係する者
- ・内容：デジタル化、PPP/PFI、広報、発信と交流、観光、国際化、ネットワークなど「文化をつなぐミュージアム」等に焦点

マネージメント職  
ガバナンス職



既存研修を再編

## ミュージアムトップマネジメント研修

- ・開催：10月5日（水）～7日（金）
- ・定員：80人／10月5日（水）～7日（金）3日間
- ・対象：ミュージアムの館長・管理職
- ・内容：法改正対応、マネジメント、事業評価・改善、資金調達等を強化

既存研修を再編

## ミュージアムPR研修

- ・開催：令和5年2月28日（火）～3月3日（金）
- ・定員：50人
- ・対象：ミュージアムの学芸員等専門職員
- ・内容：広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等に焦点

オペレーション職

既存

## ミュージアム専門職員在外派遣研修

- ・定員：若干名／1か月 or 3か月 ※ 成果発表会等を開催

### 歴史民俗資料館等専門職員研修会

- ・定員：50人／5日間×2力年
- ・実施：文化庁、国立歴史民俗博物館

### 保存担当学芸員研修

- ・定員：30人／9日間
- ・実施：東京文化財研究所

### キュレーター研修

- ・定員：若干名／受入館が承認した期間
- ・実施：国立美術館

### その他

- ・全国博物館長会議（文化庁）／対象：博物館館長 期間：1日間
- ・防災・防犯研修（文化庁）／対象：教育委員会や博物館等の担当者 期間：1日間
- ・学芸員研修会（全国美術館会議）／対象：会員館職員、個人会員、賛助会員 期間：1日間
- ・研究協議会（日本博物館協会）／対象：博物館職員や博物館運営に関わる者 期間：2日間

マネージメント職  
ガバナンス職  
オペレーション職

令和3年度

- 博物館館長研修 50人／3日間
- ミュージアム・マネジメント研修 50人／3日間
- ミュージアム・オペレーション研修 50人／5日間

新設

再編

再編

● 「文化をつなぐミュージアム」研修 300人／3日間

● ミュージアムPR研修 50人／5日間

● ミュージアムトップマネジメント研修 80人／3日間

令和4年度

文化庁が実施

独立行政法人等が実施

# ミュージアムPR(パブリックリレーション)研修

## 1 研修の趣旨

ミュージアムの学芸員等専門職員を対象に、地域や社会との望ましい関係を創り出すため、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからのミュージアムに求められる役割に必要な知識・技能を培う研修を行い、博物館経営能力の向上を目指す。

## 2 研修の概要

主催者：文化庁

対象者：博物館に勤務する学芸員等専門職員

上記と同様の職務を行うと主催者が認める者

定員：①全日程現地参加 30名（予定）

②講義科目のみのオンライン参加 100名（予定）

※受講希望者多数の場合には、文化庁において選考のうえ決定し、応募者全員へ直接通知。

実施期間：令和5年2月28日～3月3日（4日間） 要全日参加

※現地参加者とオンライン参加者では、参加する研修プログラムが異なるため、

必ず確認してください。


実施方式：現地開催（神田公園区民館）、講義科目のみオンライン配信を実施

（全日程現地参加者は全てのカリキュラムを受講していただきます。講義科目のみの


オンライン参加者が受講すべきカリキュラムは、カリキュラム名の下に◇を記載します。）

## 3 日程とカリキュラム(テーマは仮です)

【2/28】	時間	テーマ	概要
講義1 ◇	10:00～11:00	文化施設としてのミュージアム	博物館法の一部改正に伴い、地域の多様な主体との連携・協働によって地域活力の向上へ寄与する新しいミュージアム像を俯瞰する。
	五月女賢司	大阪国際大学 准教授	
講義2 ◇	11:15～12:15	博物館法の改正と文化観光推進法	博物館法の改正と文化観光推進法について解説するとともに、法改正で議論された「これからの博物館」について考える。
	中尾智行	 文化庁 参事官(文化観光)博物館支援調査官 河内長野市教委、大阪府文化財センター、大阪府立弥生文化博物館を経て2020年から現職 博物館の価値の発信を軸としながら、博物館振興や文化観光のあり方を研究 専門は、日本考古学(弥生時代)、博物館学、文化観光	
講義3 ◇	13:15～14:15	博物館実務と法令	学芸現場において必要となる関係法令(銃刀法、著作権法、ワシントン条約、輸入・輸出貿易管理令、ベニス憲章等)について、必要となる場面と手続きを概説する。
	山口俊浩	 文化庁 企画調整課 博物館振興室 東京藝大美術館、東京国立博物館保存修復課、宮内庁工務課を経て、2009年より現職 これまで私立美術館の支援、日本古美術海外展、建築資料の保全、美術品補償制度等を担当 専門は、文化財保存学(保存修復・環境保全)、建築史(日本近世・近代)	

グループ ワーク1	14:30～17:00	今日的課題への対応(討議)	ミュージアムが抱える今日の課題について、技術的観点でのグループ討議を行い、相互発表を行う。
	文化庁	 <ul style="list-style-type: none"> <li>[テーマ1]ポストコロナにおけるミュージアム</li> <li>[テーマ2]ICTを活用したミュージアムのあり方</li> <li>[テーマ3]札幌市動物園条例制定における意義と全国への波及</li> <li>[テーマ4]コレクションマネジメントから考える次の100年</li> <li>[テーマ5]地域連携と地域活力の向上に係る使命・目標策定・評価</li> </ul>	

【3/1】	時間	テーマ	概要
グループ ワーク1	10:00～12:00	今日的課題への対応(討議の続き・発表)	
講義4 ◇	13:00～14:15	博物館のデジタルアーカイブと教育現場	学校教育におけるデジタルアーカイブの活用実践を通して、新しい学びの創出とデジタルアーカイブの可能性について示していく。
	大井将生	TRC-ADEAC特任研究員	
講義5 ◇	14:15～15:15	市民から見た博物館	博物館の取組に対する応援、情報提供及びネットワークの形成など、博物館を市民の立場から捉える活動について理解を増進する。
	調整中		
講義6 ◇	15:30～16:30	博物館資料を「路上」に持ち出す	3次元データやその出力によるレプリカを活用して活動する「路上博物館」。博物館資料の公共化と新しい発見の創出について考える。
	森 健人	一般社団法人路上博物館 代表理事	
討議	16:45～17:15	質疑応答、全体討議	参加者全員及び文化庁職員による質疑応答。

【3/2】	時間	テーマ	概要
施設見学	10:00～12:00	都内美術館	
グループ ワーク2	13:30～17:00	地域課題への対応(討議)	ミュージアムが中核となって取り組む地域課題への対応について、政策的観点でのグループ討議を行い、相互発表を行う。
	文化庁	 <ul style="list-style-type: none"> <li>[テーマ1]大規模災害時における地域文化財のセーフティーネット</li> <li>[テーマ2]孤独・孤立を受け止めるミュージアム</li> <li>[テーマ3]デジタル田園都市におけるミュージアムと満足度向上への貢献</li> <li>[テーマ4]持続的な活動のための価値の創出、地域還元</li> </ul>	

【3/3】	時間	テーマ	概要
グループ ワーク2	10:00～14:15	地域課題への対応(討議の続き・発表)	
講義7 ◇	14:30～15:45	外部資金の獲得／寄付者の視点	支援者による理解、寄付の喚起、ファンドレイズ体制の確立といったミュージアムの基盤強化につながる好循環を念頭に、寄付者の視点を知る。
	調整中		
討議	16:00～17:00	質疑応答、全体討議	参加者全員及び文化庁職員による質疑応答。